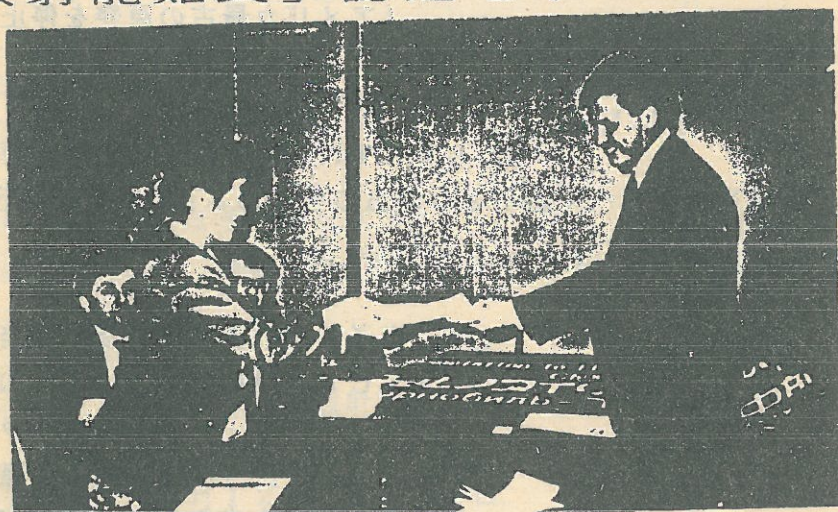


◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意下さい。

ポレーシエ ……チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1992.5.24 No.11

「放射能難民」認定を求めて



国連で共同覚え書きを担当官にわたす朱宮裕子さん (1992.4.27)

私たち救援・中部スタッフが「国連プロジェクト」と呼んでいた、国際機関への覚え書き提出とNGOとのつながりを作り上げるための計画が、当初の目的を達成して無事一段落しました。短い滞在期間の中で「グリコ（お手上げ）でだるま（手足がでない）」（朱宮さんから初日届いたファックスから）と苦難の中で沢山の人々とのつながりを築いて来た、朱宮裕子さん（会社員・??歳）と萩原重夫さん（大学講師・41歳）本当にお疲れさまでした。

また実現が心配されていたジトミールスキー・ヴィスニーク新聞からコセンコ氏（現編集長）とメルニチュク氏（ジトミール市議会議員でウクライナ国会議員）との合流もニューヨークで実現しました。コセンコ氏とメルニチュク氏もニューヨークで朱宮さんらの帰国後も市議員や上院議員に救援要請し無事ウクライナへ戻りました。

お二人の面会先はおよそ次頁の通りです。またこのプロジェクトで様々なアドバイスいただいた方、訪問先などの手配を助けていただいた方々本当にありがとうございました。

朱宮裕子さん 4月19日出発—4月29日帰国（ニューヨークのみ）
萩原重夫さん // —5月2日帰国（ニューヨークおよびジュネーブ）

主な面会先 朱宮さん：

ANDREY VASILYEV（国連環境開発会議）
ジュディ・カーマイケルさん（全米NGO代表）
VICTOR H. BATIOUK（ウクライナ国連全権大使）
CITIZENS AWARENESS NETWORK
（アメリカ最古の原発を停止させた）
TRAPROCK PEACE CENTER
AMERICANS FOR HUMAN RIGHTS IN
UKRAINE（ウクライナ系人権団体）

* 今後情報交換をすべく紹介されたものも含めると合計約30団体（個人を含む）。

萩原さん：

緒方貞子さん（国連難民高等弁務官）
UNICEF財務局長 山本 和氏
ウラディミール・ザゴラ氏 ベラルーシ関係者
デッドリング氏（国連人権委員職員）
武儀谷氏（厚生省よりWHOに出向）
オベルツ氏（IAEA）

この他 キリスト教協議会、国際赤十字など26人。

日本からの26億円は誰のために？

今回のニューヨークおよびジュネーブ訪問でいくつか新しいニュースがあります。今度の6月のブラジルサミットで出される「リオ宣言」の中に「環境移民」という新しい定義が設けられ、放射能難民についても見直される可能性が出てきたこと。またこのエコサミットに出席する前述のいくつかの非政府団体（NGO）によりチェルノブイリ救援・中部についてと放射能難民についての覚え書きが紹介してもらえることになりました。

また萩原さんお話しによるとWHOに日本からチェルノブイリ救援のために寄付された26億円は、オプニスクの研究所建設および調査研究に使われるだけで被災者救援には使われないとのことでした。

面会したこれらの大きな団体で救援を実際に行っているところは赤十字だけで、海外でも私たちのような小さな団体しか救援をしてないというのが印象でした。

ウクライナ医師3名、名古屋で医療研修

「国連プロジェクト」とともに進めていたのが「医師研修プロジェクト」です。その結果以下の3名の医師がウクライナから中部へ医療研修することに決定しました。研修を受けてもらう医師の選定に当たっては、現地ジトミールスキー・ヴァイスニーク紙や広島ジュノーの会（現地訪問）などの協力を得ています。

またこれらの医師の研修に協力してくださるのは、名古屋市港区の協立総合病院（西崎恒男院長）と南区の南生協病院などです。

1. グリシュチェンコ・ウラジーミル・ミハイロヴィッチ
男性 38才 専門：ガン バラノフカ地区病院勤務
2. チュムト・リュドミラ・オレゴヴナ
女性 31才 専門：小児科および血液学 ジトミール州立子供病院
3. ヴェロシツキー・アレクサンダー・ニコライヴィチ
男性 37才 専門：放射線学、ガン ガン診療所勤務

滞在研修予定期間：6月12日ー7月12日

3人は、救援・中部スタッフの家にそれぞれ宿泊します。尚、ゆっくり医療研修に臨んでいただくために、滞在中に講演会など特別な行事への出席は行わないことにしています。また3人は、広島でも医療研修を予定しています。

（写真：来日する3人の医師）



事務局開設と維持会員入会のお願い

チェルノブイリ救援・中部では、救援活動の拡大により事務作業量が膨大となったこと、これまで以上にきめ細い救援をと事務局を開設しました。家賃は月25000円と大変安いのですが長期的に維持するにはまだまだ維持費が足りません。どうぞ維持会員に入会してください。

◎維持会員入会費 1,000円/月
(一年分まとめての場合 10,000円/年)

郵便振替口座：名古屋8-108610

(*通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい)

尚、事務局の住所は、

〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL: 052-836-1073

(市営地下鉄鶴舞線川名駅より徒歩15分

// 中駅より徒歩12分)

*** 文通アンケートから ***

先回、ポレーシェを発刊した際、文通を希望された方にアンケートを行いました。これは、文通を希望された方のその後を調べることにより、「チェルノブイリ救援・中部」がその特徴の一つとしている「被災地の家族と日本の人々のこころがふれあえる救援」「お互いに顔の見える関係」にもう一度立ち帰り、新たな救援に役立てようと考えたからです。

その結果、文通を希望された260名のうち約100名の方から回答をいただきました。そしてこのうち約半数の方が今も文通を続けておられます。一方文通が続いていないと答えられた方の理由として「相手から返事が届かない」が75%、「手紙を翻訳してくれる人がいない」が30%となっています。文通をしている人も言葉の問題に悩んでいらっしゃるようです。

特に返事が届かないことについては、今年になって現地で郵便料金が10倍になったことも一つと考えられますが、現地でも言葉の問題が大きいのかもかもしれません。尚、救援・中部でも手紙の翻訳を受け付けています。ただし、翻訳を手伝ってくださる方の負担も考え、返却期限についてはお約束できかねます。また切手を貼った返却用封筒を同封してください。

* * * 各地の救援だより * * *

チェルノブイリ救援・岐阜から **メッセージキャンペーンを終えて**

今年もたくさんのカードが送られて来ました。手作りのカード、市販されているカード。それはどれもをみても素晴らしく、心のこもった物が多かったです。カードはにがてなのでというおばあちゃんが、おりがみでいっぱいいろいろ作って送って下さいました物もあれば、保育園、小学校などクラス全員で一人一人絵を書きそれを送って下さった物、いろいろありました。それに、今年は2回目ということもあって、英語、ロシア語で書かれたカードも多かったです。チェルノブイリの子供達に届けて下さいという願いをこめたカードの山。この気持ちを分かってもらいたいと思い、一枚一枚をていねいに封をして送り出しました。毎晩岐阜のメンバーが集まり、「これいいネ!」「ワーきれい!!」といいながら、まるで自分がいただいた様な、うれしい気分になり、作業しながらも、楽しかったです。

北は、北海道から、南は九州の人達から送られてきた4千通程のカード、おりがみ、小物・・・etc。

本当に、お送り下さいました皆様。ありがとうございました。岐阜のメンバー、皆喜んでおります。
(小笠原まや)

大垣ムラサキツユクサの会 **絵本キャンペーンを終えて**

私たちは、物がほしいのではありません。ただ私たちのことを誰かがおぼえていてくれるということだけが救いなのです・・・チェルノブイリの母親のそんな悲痛なつぶやきに促されて私たちの絵本キャンペーンは始まりました。

極端に物資の窮乏している状態の中で抗生物質やミルク、食料はもちろん一番必要なものだろうけど、放射能の後遺症で苦しむ子どもたちにたとえひとときでもほほえみがかもどることができたなら、というささやかな望みを託してのキャンペーンでした。

各新聞社やNHKテレビの放映の協力により、全国各地から暖かい励ましの手紙とともにたくさんの絵本が届けられました。

「坂東さんの本を読んだり、日ごとに報道されるニュースを耳にするたびに3人の子どもを持つ母親として心がふるえるほどのおもいで接し、送らずにいられなくなりました」「泊原発から5キロの所に住んでおり、嵐の日にはR-DAN(放射線検知器)がピーピーとなりとても人ごととは思えない」「ソ連の子ども

たちの喜ぶ顔がうかんで、あれもこれもと入れてしまいました。」各学校や学校単位で送って下さったところもあります。

また、絵本の寄贈をお願いした子どもの本の各出版社からも「チェルノブイリのことは知っていたが何もできずにいたところをこういう機会をいただき感謝している」という主旨の手紙をそえてたくさん美しい絵本を送っていただきました。

このような暖かい手紙が、どんなに私たちの胸を熱くさせ、活動の原動力になったことでしょう。ともに同じ地球に生きるものとしての私たちの思いは、絵本の一冊一冊にこめられて、チェルノブイリの子どもたちに届いたことでしょう。皆さまのご協力に深く感謝致します。

(稲葉厚子)

(*事務局注：今年2月末に約5800冊の絵本が現地に届けられました。)

チェルノブイリの子どもたちに 絵本を贈ろう



チェルノブイリの児童数は約5年、放射線の汚染により、今も多くの子どもがベッドの上で目を覚ましています。その子どもたちの心なぐさめ、はげすむために、クリスマスプレゼントとして絵本を贈りましょう。来年度の贈り物を贈りませんか。クリスマスカードも受け付けています。
※絵本のほか、図鑑や学習帳でも構いません。
A切 11冊まで

〒270-0245
茨城県水戸市南千代1-1-1
TEL 027-221-1177

チェルノブイリ救援・中部

* * * 声・声・声 * * *

(文通アンケートに対して名古屋市内の主婦の方からいただいた手紙です)

チェルノブイリ救援の会の皆様日頃は大変御苦労様でございます。

最初新聞で拝見しました頃丁度弟の一人息子が20才で白血病でしたのでひと事に思えずつい軽い気持ちで(感情のまま)思い立ちましたが外国語がまったくわからない私にはとてもむりな事に気づきました。

私も病気で遊んでいましたしお電話で伺いましたら日本語で良いとの事でしたのでなんとかとっていました。が昨年八月又脳軟化になり人様どころでなくなりました。今は自分のリハビリでお仕事もう出来ません。脳出血、動脈リュウ手術、脳梗塞と大病ばかり。2年間で三つもやりましたのでごめんなさい。

ちなみに甥は、骨髄移植を致しましたが昨年五月他界して行きました。一口や二口でお話し出来ないほどの最後でした。一年を迎える今だに折りごとにどなたかわからずお墓参りに来て頂いている様です。そのくらいドラマの様な闘病生活でした。

私もなんとか少しでも人様のお役に立つ事が出来る様になりたいと心して居ります。どうぞこれにてお許し下さいませ。皆様の御健闘を祈ります。

(* * 子)

今後の取り組みについて

今、現地では新生児や子供たちの死亡率が大変上がっていると救援を求める声が届いています。このためチェルノブイリ救援・中部では日本のワクチンの現地での効果などについての調査を進めており、めどがつけば早急に消毒薬や複合ビタミン剤などとともに大量に送付したいと計画しています。どうぞ救援にご協力ください。

*** 楽園の事務局だより ***

— ヤマモリのやまもり仕事を前にして — 山盛三千枝

3月に事務局がオープンしてあつという間に3ヶ月が過ぎようとしています。最初の予想とは大ちがいで、ネコの手も借りたいくらい忙しい毎日を過ごしています。実際午前10時から午後3時というのを一応勤務時間にはしていますが、仕事を持つ他の人たちとの会議があつたりで結局夜遅くなることもたびたびです。

どなたかボランティアで昼食の間だけでも電話の番をしてくださる方いないのかナーと夢見るこのごろです。事務局は地下鉄鶴舞線八中駅から歩いて12分ほどの閑静な住宅街のアパートで、大道具専門?のスタッフがきれいに内装をしてくれた一室です。どうぞ気軽にお立ち寄りください。

* チョットひといき (スタッフの会議メモから) *

* 師走の寒い夜、事務局では現地でお世話になった人に何をお礼として渡すかについて女性たちの間で議論が白熱していた・・・ *

* *

* A: やっぱりパンストよね、かさばらないし現地はモノ不足だからきつとよ
* ろこばれるわよ。 *

* B: いえ現地は放射能への不安で中絶が多いということよ。そうなればやっ
* ぱりコンド**よ。それにあれこそかさばらないでしょ。 *

* C: 私たち女性がそれを現地の男性に配るわけ? 誤解されないかしら。 *

* D: コンド***ねえ。私の家にも古いのがあるけど。そういえば、あれっ
* て賞味期限ってあるのかしら・・・。 *

* A, B, C: (全員、目がテン。(。;)) *

* (で、結局スタッフはバッグに沢山パンストをつめ込んで冬のウクライナ
* に旅立ったのでありました。余談ですけど、防寒服の中に入れてととても
* 暖かいソウデス。)

チェルノブイリ救援・中部<収支報告> (1991.9.1-1992.4.30)

収 入	金 額	支 出	金 額
前期繰り越し	3,160,560	ミルクキャンペーン実施	5,905,000
寄付金	22,331,481	医療機器、付属品	13,220,085
各種キャンペーンカンパ	6,920,860	ミルク代、移住基金など	1,150,453
書籍、絵葉書等売上	2,378,042	航空券、旅費	2,694,319
講演会、報告会売上	48,800	駐在員委託料	125,980
絵画展貸出料	202,000	救援物資通関輸送費	282,714
バザー売上	144,980	印刷費、コピー費	515,130
預金利子	161,338	会場費、家賃	443,868
雑収入	35,580	切手、国際電話、送料	883,666
		事務所備品、文房具	253,038
		民芸品買付け代	204,781
		書籍、絵葉書等製作	1,030,620
		放射能汚染地区	8,510
		事務所人件費維持費	503,440
		小 計	27,221,604
		次期繰り越し	8,162,037
合 計	35,383,641	合 計	35,383,641

＊ ＊ お知らせとお願い ＊ ＊

- ・ネチポレンコさんたちの来日講演録全文をまとめました。専門家の解説つき。一部350円。
- ・この通信誌「ポレーシェ」の購読を募集中。隔月発刊で年千円です。
- ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・事務局維持会員になって下さい！詳細は本誌4ページをご覧ください。
- ・現地からチェルノブイリ特集英語版「CHERNOBYL HOSTAGES」到着 500円
- ・チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード完成。一枚1000円50度数。

チェルノブイリ救援・中部 (郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

代表：坂東弘美 TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

その他の問合せ先：岡部 (昼のみ) 豊橋市東新町334 TEL.0532-52-2380

長谷川 (夜のみ) 名古屋市名東区赤松台502 TEL.052-773-0271

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を張った封筒を同封してください)